

第3回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議

日 時	令和7年8月22日（金） 午後2時から
場 所	市役所低層棟4階 委員会室

次 第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題
 - (1) 野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について
 - (2) その他
- 4 閉会

議題（１）野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について

- 1 本会議での検討項目は、次の全体構成における太字網掛け部分の項目（再検討となった理念案及び第２回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議において次回以降お示しするとした項目）とする。

第１章 鈴木貫太郎記念館の再建の検討にあたって

1. 課題の整理
2. 本計画の位置づけ

第２章 新しい記念館の理念

1. 理念
2. 事業活動方針
3. 想定される利用者層
4. 事業活動の全体像

第３章 事業活動計画

1. 収集保存（まもる）
2. 調査研究（さぐる）
3. 展示公開（みせる）
4. 生涯学習（まなぶ）
5. 発信（ひろめる）
6. 交流（つどう）

第４章 展示計画

1. 展示のテーマ
2. 展示の構成

第５章 交流計画

1. 基本的な考え方
2. 事業の展開

第６章 施設整備計画

1. 基本方針
2. 敷地
3. 諸室
4. 配置・平面計画

第７章 管理運営計画

1. 基本的な考え方
2. 管理運営方式及び運営組織

第８章 工程計画

2 再検討となった理念案については、次のとおりとする。

1. 理念

基本構想では、新記念館が目指す姿を、鈴木貫太郎の功績を顕彰するとともに、関宿地域の活性化を促進し市内外から繰り返し多くの人々に訪れていただける記念館としています。

記念館の再建にあたり、目指す姿の実現に向け、新記念館の理念を以下のように設定します。

参考 第2回会議に提案した理念案

A 案 郷土の偉人の功績を未来につなぎ、発信していく文化・交流の拠点

B 案 郷土の偉人の顕彰 貫太郎の功績と想いの継承 文化・交流の拠点

【再検討後の理念案】

郷土の偉人 鈴木貫太郎の功績 永遠の平和への想いを

未来につなぐ にぎわいの拠点

再検討後の事務局案は、新記念館の目指す姿から

- ① 郷土の偉人鈴木貫太郎の功績及び亡くなる前のことばとされる「永遠の平和」に代表される想いを顕彰し、未来へつなぐということ
- ② 関宿地域の活性化を促進し、繰り返し多くの人々に訪れていただける施設という点を、具体化したものです。

鈴木貫太郎を顕彰し、調査研究、保存、発信等の博物館として機能を果たしながら、「平和」について鈴木貫太郎の想いなどから、来館者にも自ら考えてもらう契機となるような展示、施設の構成を展開します。

- 3 第2回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議において次回以降お示しする
とした各項目案については、次のとおりとする。

第4章 展示計画

1. 展示のテーマ

展示の事業活動方針に基づき、展示のテーマを次のとおり設定し、展示を展開します。

郷土の偉人 鈴木貫太郎の功績と想いを伝え、未来へつなぐ

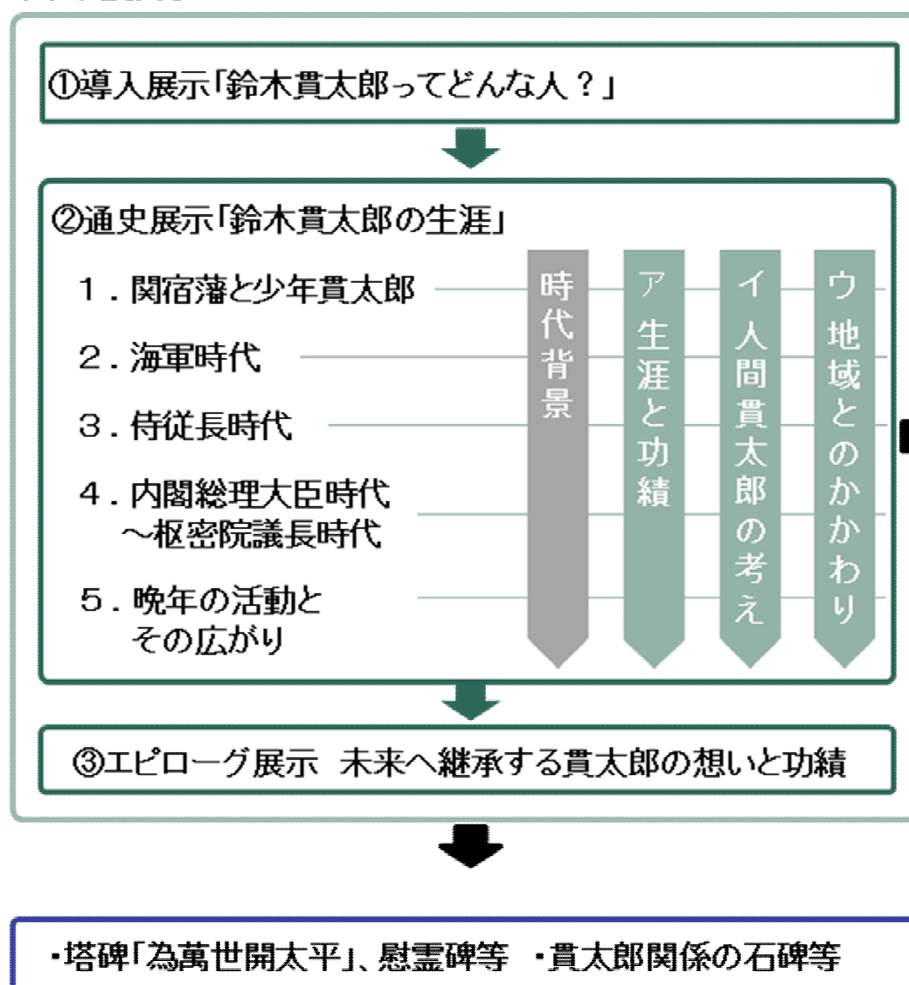
新記念館の展示では、野田市関宿出身の偉人・鈴木貫太郎の想いや功績を伝え、次世代へ継承することを目指します。

終戦に導いた総理大臣として日本の歴史的にも大きな役割を果たした功績だけでなく、国の行方を案じ、信念を持って実直に行動をした人物像や郷土との関わりにも焦点を当て、その考えに触れるだけでなく、その想いを過去から未来へつなぎ、来館者にも自ら考えてもらう契機となる展示を展開します。

2. 展示の構成

本展示は、常設展示、企画展示により構成し、鈴木貫太郎について多角的に紹介します。

(1) 常設展示



(2) 企画展示

- ・実物資料を中心に紹介
- ・深掘りテーマで貫太郎を紹介
- ・周辺地域や他館との連携
- ・野田市・関宿町との関わり

(1) 常設展示

- ・ 鈴木貫太郎の生涯の足跡をたどり、終戦に導いた功績について紹介します。
さらに「人となり」に迫り、より身近に人柄や考えに触れる展示とします。
- ・ 関宿町と鈴木家の関わりや、晩年の帰郷と酪農や農事研究の取り組みなど、関宿地域との関わりについても紹介します。
- ・ 生涯を紹介する上で重要な実物資料を中心に、映像技術やアニメーション、イラストなどの手法を活用し、親しみやすく、分かりやすい展示とします。

① 導入展示「鈴木貫太郎ってどんな人？」

鈴木貫太郎の基礎的な知識や功績を分かりやすく紹介することで、来館者が展示全体を理解しやすくなるような展示とします。また、鈴木貫太郎の実直な人物像にも触れることで、鈴木貫太郎に人柄の親しみや関心を持ってもらう展示とします。

さらに、戦争の激動の時代を生きて感じた平和への想いを、「永遠の平和」等の遺した言葉から伝えます。

【展示展開（案）】

○人物像と功績を俯瞰する概略解説

- ・ 来館者が展示の全体像を把握しやすくなるよう、鈴木貫太郎の生涯や功績、人物像について映像・アニメーション等を用い、分かりやすく紹介します。

○鈴木貫太郎の言葉から読み解く実直な人柄や平和へ想い

- ・ 鈴木貫太郎が遺した様々な言葉を通じて、来館者がその人柄や考え方に触れ、鈴木貫太郎の行動の背景を考えられる展示とします。（参考資料1）
（例：「太平の海」、「永遠の平和、永遠の平和」、「天空海闊」、「正直に腹を立てずに撓まず励め」、「為萬世開太平」、「奉公十則」等）

○他者との関わりから見る人間貫太郎

- ・ 鈴木貫太郎と関わりのあった人物との関係性やエピソード、関係者の言葉で鈴木太郎について紹介し、鈴木貫太郎の魅力や「人となり」に迫り、より分かりやすく人物像を紹介します。
（例：人物相関、他者が語る鈴木貫太郎、他者との書簡やりとり、エピソード等）

② 通史展示「鈴木貫太郎の生涯」

- ・戦争の激動の時代を生き、終戦に導いた鈴木貫太郎の生涯と功績について、時代背景とともに深く理解してもらうことを目的として、歴史的事象と関連づけながら通史的に紹介します。
- ・展示では、鈴木貫太郎の「生涯と功績」「人間貫太郎の考え」「関宿との関わり」について、多面的に捉えられる構成とします。
- ・来館者が鈴木貫太郎の歩みを時代と合わせて理解しやすくするため、鈴木貫太郎の絵画資料を中心に展示しながら、当時の社会状況を補足するイラストやグラフィックを用い、視覚的な理解を促します。
- ・また、それぞれの絵画資料をつなぐかたちで、各時代におけるトピックスを紹介し、ストーリー性のある展示とした上で、鈴木貫太郎の人柄や考え方、地域との関わりにも焦点を当てることで多面的な魅力に触れてもらう構成とします。

②通史展示「鈴木貫太郎の生涯」

1 . 関宿藩と少年貫太郎

2 . 海軍時代

3 . 侍従長時代

4 . 内閣総理大臣時代
～枢密院議長時代

5 . 晩年の活動と
その広がり

時代
背景

ア
生涯
と
功
績

イ
人
間
貫
太
郎
の
考
え

ウ
地
域
と
の
か
か
わ
り

通史展示「鈴木貫太郎の生涯」のテーマ構成

該当するテーマ：ア) 生涯と功績、イ) 人間貫太郎の考え、ウ) 地域とのかかわり

大テーマ	中テーマ	概要	該当する テーマ	ストーリーに関わる資料
1 関宿藩と少年貫太郎	関宿藩士鈴木家に生まれて	・関宿藩士であった鈴木家について紹介する。 ・鈴木貫太郎の出自や少年時代をたどり、記念館のある関宿地域とのゆかりを紹介する。	ウ	
～真面目で温厚な貫太郎の原点～	泣き貫と関宿時代	・厳格で教育熱心であったが、やさしさをもって接した両親について紹介。母がいないとすぐに泣き出し「泣き貫」と呼ばれた貫太郎幼年時代の側面も紹介する。	イ	鈴木きよ肖像（絵画）
	父 由哲の教え	・鈴木貫太郎の人格形成に大きな影響を与えた父・鈴木由哲の「怒ってはいけないよ」といった教えについて紹介し、真面目で温厚な鈴木貫太郎の原点を示す。	イ	鈴木由哲肖像（絵画） 正直に腹を立てずに撓まず励め（色紙）
2 海軍時代	実践の専門家貫太郎	・水雷（魚雷）の専門家としての側面や鈴木貫太郎の多面的な人物像を伝える。 ・国際的な視野を備えていた人物像を「太平洋は太平の海で神がトレードのために置かれたもの」等、貫太郎の談話等から貫太郎の考えも紹介する。	ア	日露戦争日本海海戦（絵画） 鈴木貫太郎写真（明治38年頃） 鈴木貫太郎写真（海軍大将時代）
～専門家・教育者として実直かつ国際的広い視野を持っていた貫太郎～	教育者として	・「奉公十則」を示した練習艦宗谷艦長時代など「鬼貫」とも称された厳格な教育者であった側面を紹介する。	ア	奉公十則（額装） 鈴木貫太郎海軍兵学校長訓示集（古文書）
	地元に残る貫太郎の足跡	・関宿や周辺小学校に残る貫太郎の足跡をたどり、地域との繋がりを紹介する。	ウ	関宿小学校落成式写真
	タカとの再婚 【タカ夫人トピック展示】	・昭和天皇が最も信頼した養育係であったタカ夫人との結婚の経緯や、夫人の人柄を紹介することで、鈴木貫太郎の私生活の側面についても着目し、人物像を多角的に紹介する。	イ	鈴木タカ肖像（絵画） 鈴木貫太郎肖像（絵画） 夫婦書簡（演習について）（古文書）
3 侍従長時代	侍従長就任	・侍従長就任した背景や、承諾した経緯などを紹介する。	ア	
～豪傑だったタカ夫人～	二・二六事件 【タカ夫人トピック展示】	・当時の情勢について紹介し、二・二六事件が起きた当時の情勢について紹介し、鈴木貫太郎が襲撃を受けるに至った経緯を紹介する。 ・二・二六事件での安藤輝三大尉率いる部隊の襲撃を受け、瀕死の重傷を負いながらも、タカ夫人の機転により九死に一生を得たエピソードを紹介。		2.26 事件鈴木侍従長遭難（絵画） タカ夫人の証言（音声資料） 火鉢
	二・二六事件快気祝い	・瀕死の重傷からの回復とそれを願った関宿地域の人々について紹介する。	ウ	回復の書状、快気祝いの写真、快気祝いで先生に送った茶器

大テーマ	中テーマ	概要	該当する テーマ	ストーリーに関わる資料
4 内閣総理大臣 時代・枢密院議 長時代 ～強い覚悟で日本 を終戦に導く～	内閣総理大臣就任	・昭和 20 年 4 月 5 日鈴木貫太郎に組閣の大命が下り、鈴木内閣が成立。昭和天皇の信頼と意思「信頼できる人物に終戦への道筋をつけてもらいたい。」もあり、総理大臣に就任したことも紹介する。	イ	
	終戦へ向けて ～戦争終結への強い意思	・陸軍の要望による組閣、戦況の悪化、原子爆弾の投下やソ連の対日参戦など、当時の厳しい情勢を事実に基づいて提示し、その極めて困難な状況下において鈴木貫太郎が示した終戦への意志と最終的に御前会議において天皇の「ご聖断」を仰ぐに至るまでの行動に迫る。 ・終戦の詔書から引用し、晩年貫太郎翁が多く揮毫した言葉「為萬世開太平」（ばんせいのためにたいへいをひらく）について、この後、何世代も続く世のために平和な世をつくるとの意味合いとあわせ紹介する。	ア	8 月 9 日御前会議（大型絵画） 最後の御前会議（大型絵画） 揮毫「為萬世開太平」（額装）
	終戦の緊迫	・終戦に反対する暴徒による襲撃から内閣総辞職までの流れを紹介。 ・吉田茂とのやりとりとして、ご聖断についての賞賛についても紹介する。	イ	焼損資料(勲章、懐中時計、たばこ入れ)（衣類・装飾） 皇后陛下 ^{かし} 下賜の茶器（陶磁器）
	枢密院議長として	・総理大臣辞職後も枢密院議長に任命され、中央政界に身を置きながら、戦後日本の進路を見守ったことを紹介する。	ア	就任辞令（古文書）、退任辞令（古文書） 日記 2 1 年（古文書）
5 晩年の活動とそ の広がり ～ふるさとへの 郷土愛～	・ふるさと関宿への思いと 帰郷 ・帰郷～農事研究会の開催 と酪農の基盤づくり	・郷土関宿へ戻り、地元の若者に酪農を学ばせる機会を設けるなど、地域に新たな産業の芽を育てる先導的な取り組みを行い、ふるさとの発展に貢献したことを紹介する。	ウ	日記 2 2 年（古文書） 晩年写真 鈴木貫太郎木像（木彫刻）

③ エピローグ展示「未来へ継承する貫太郎の想いと功績」

- ・ 鈴木貫太郎を顕彰してきた人々の想いや活動の歩みを紹介し、その精神が現在、そして未来へとどのように継承されていくかを考えます。

【展示展開（案）】

○展示を通して印象に残ったことを考える

- ・ 来館者が展示を通じてもっとも印象に残った事柄を振り返り、鈴木貫太郎の想いや言葉を「自分ごと」として心に引き継ぎ、持ち帰ってもらうことを目的とした参加型展示を計画します。鈴木貫太郎の遺した言葉を吹き出し型パネルで用意し、来館者が自身の心に響いた言葉を手に取り、写真撮影を行えるフォトスポットを設置することで、それぞれの記憶に印象深く残る展示体験となることを意図します。

○貫太郎を顕彰する人々とその活動の紹介

- ・ 鈴木貫太郎の意志を最も身近で継承し、戦没者慰霊碑の建立や酪農の普及等、平和と閑宿の発展に尽力したタカ夫人の活動について紹介します。
- ・ 鈴木貫太郎を顕彰すべきとの機運が高まり、記念館建設に至った経緯や、それまでの顕彰活動の歴史を紹介します。今回の鈴木貫太郎記念館の再建も、そうした活動の延長線上にあることを来館者に伝え、顕彰の意味やその歴史的な評価を再認識してもらいます。
- ・ これまでの想いを踏まえ、来館者自身が鈴木貫太郎の信念を未来へと引き継いでいく一員であることを意識できる展示を目指します。

（２）企画展示

- ・ 企画展示室では、常設展示室と連動できる構造とすることで、企画展示室単独での活用のみならず、常設展と連動させ、時限的に貴重な収蔵資料を展示することを可能とします。
- ・ 常設展示のストーリーでは十分に扱いきれないテーマ、コラム等を深掘りし、関連する資料とあわせて紹介します。
- ・ 鈴木貫太郎と関係のあった人物に着目し、他館との連携による共同展示など、多様な切り口からの展開を図ります。
- ・ 本市と鈴木貫太郎との関わりに焦点を当てた展示も行い、地元とのつながりを再確認する機会とします。

（３）野外空間

- ・鈴木貫太郎記念館敷地内にある旧宅跡など鈴木貫太郎夫妻にゆかりの史跡等の巡回コースや解説板などを整備し、貫太郎が過ごした地を感じ取ってもらえるようにします。

（４）展示解説

多様な来館者に対応した解説を提供し、背景を問わず理解を深められるよう配慮します。展示パネルによる解説に加え、ワークシート等を活用した参加型の学びを通じて、理解を促進する構成とします。

（５）対象年齢

校外学習での来館のある小学校４年生以上から高齢者までを主たる来館者と想定します。そのため、小学校４年生以上での学習する漢字にはルビを振る等の対応を行い、できる限り分かりやすい文書とします。また、戦争などの時代背景を知らない世代の子どもでも理解ができるよう、映像やアニメーション、イラスト等を積極的に活用し、視覚的、体験的に理解を深められる解説を行います。

（６）インクルーシブ対応

年齢、障がいの有無、言語、文化的背景の違いに関わらず、幅広い来館者が展示を理解、体験できるよう、分かりやすい展示解説を行います。

（７）視覚・聴覚障害への配慮

音声解説や字幕表示を行い、障がいがある方にも情報が伝わるように配慮します。また、カラーユニバーサルデザインに対応した色彩設計とし、視認性の高い展示とします。

（８）言語・文化的背景への対応

多言語対応は英語を基本とし、外国人の来訪状況を踏まえて必要に応じその他の言語表記も検討します。また、戦争や歴史に関する内容についても、国籍や文化的背景を問わず内容を理解しやすい表現となるよう、翻訳や解説に配慮します。

（９）ハード面での配慮

車椅子が通行可能な通路幅の確保や、子どもや車椅子利用者にも配慮した展示の高さの設定など、多くの人が快適に観賞できる展示とします。

第5章 交流計画

1. 基本的な考え方

新たな鈴木貫太郎記念館においてさまざまな交流事業を展開することで、記念館が地域住民にとっての学びと交流の場であり、県外を含む市内外からの訪問者にとっても歴史を深く学び、平和について考える魅力的な拠点となることを目指します。

2. 事業の展開

(1) 地域住民との交流を深める企画・プログラム

「野田市の記憶」プロジェクト

鈴木貫太郎に関連することや、鈴木貫太郎に関わった出来事（終戦、酪農など）に関連する野田市内の古写真、手記、体験談などを住民から募集し、デジタルアーカイブ化や企画展に活用します。これにより、住民自身の歴史への関心を高め、記念館への愛着を育みます。

「鈴木貫太郎を語る会」の定期開催

鈴木貫太郎について情報や歴史認識などの交流を図りたい人、当時の歴史に詳しい人、興味のある人などが自由に集まり、フリートークや簡単なプレゼンテーションを行う場を設けます。参加者同士の多様な視点や知識を交換し合い、新たな発見や交流が生まれます。

(2) 多様な来館者が関わる体験型・参加型プログラム

「テーマ別ワークショップ・講座」

歴史ファン向け：鈴木貫太郎研究者による講座、関連文献の読書会、専門家を交えたディスカッションなど。

親子向け：昔の遊び体験などの親子で楽しめる企画。

平和教育プログラム：終戦記念日などに、平和を考える特別プログラムなどを開催します。

「ボランティアガイドの育成と活用」

地元住民や歴史に関心のある人々を募り、研修を通じて記念館のガイドとして育成します。来館者との個人的な交流が生まれ、より親しみやすい雰囲気を作ります。

(3) 地域連携による交流

「終戦関連施設との連携」

日本国内の他の平和記念施設などと情報交換や共同企画展を実施し、より多角的な視点から歴史を伝える機会を創出します。

「歴史人物記念館ネットワーク」

鈴木貫太郎と同様に歴史上の重要な役割を果たした人物などの博物館と連携し、共同イベントなどを企画することで、誘客を促進します。

「周辺施設との連携」

近隣の千葉県立関宿城博物館をはじめ、市内外の近隣に所在する博物館等施設、また県内の関係のある施設と共同企画や連携事業を実施し、近隣や県内の人々にも鈴木貫太郎を知ってもらえる機会を創出します。

(4) 交流スペースの設置と活用

「交流スペース」

小規模な講演会やワークショップ、読書会などに利用できるスペースを設置します。地域のサークル活動などにも貸し出すことで、日常的な住民の交流拠点としても機能させます。

「鈴木貫太郎関連書籍・資料コーナー」

関連書籍や研究論文、野田市や旧関宿町の歴史資料などを自由に閲覧できるコーナーを設け、知的好奇心を満たせる場とします。

(5) 「気軽に立ち寄りたい場所」としての機能強化

「地域情報掲示板／情報交換コーナー」の設置

記念館の交流スペースの一角に、地域のお知らせ、イベント情報、ボランティア募集などを掲示できるボードやパンフレットラックを設けます。

住民が自ら情報を発信・入手できる場とすることで記念館が地域の情報ハブとなり、住民同士の新たなつながりを生み出します。記念館が単なる歴史施設ではなく、地域の生活に密着したコミュニティの拠点として認識されることを目指します。

第7章 管理運営計画

1. 基本的な考え方

(1) 野田市の地域交流拠点・文化観光拠点としての運営

令和4年度に博物館法が改正され、文化観光や国際交流、福祉や産業など様々な分野での活動が地域の博物館に期待されています。

新記念館の建設とさらに今後隣接地に整備が予定されている商業施設との相乗効果を通して、地域住民の交流や市外からの来訪者にとってのにぎわいや交流の拠点を目指します。

また、あらゆる人々に鈴木貫太郎及び野田市の魅力を伝える展示や活動を行うことで、地域の活力向上に貢献します。

(2) 持続的・発展的な管理運営

事業活動等の持続的、発展的な推進のため、民間活力の導入を含め、適切かつ必要な管理運営体制を整え、柔軟な運営を行います。さらに、新記念館が長期間にわたって着実に活動できるよう、運営の合理化、効率化を図るとともに、ファンの創出と支援体制の組織化、安定した運営資金の確保に向けた取り組み等を、積極的に展開します。

(3) 経済性・環境性に配慮した運営

博物館の各諸室に応じた機能水準を満足する設備を整備し、各諸室に応じた空調管理など、ランニングコストの縮減に努めながら、来館者の快適性を確保した、運営効率の高い取組を実施していきます。

2. 管理運営方式及び運営組織

(1) 管理運営方式

市の直営のほか、官民連携の代表的な管理運営方式である指定管理者制度やPFI等の方式があります。野田市郷土博物館が既に指定管理者制度を導入しているため、同館や類似施設の管理運営状況を参考にしながら、館長や学芸員などの人材の確保や養成、登録博物館としての機能を十分に発揮しつつ、にぎわいや交流の拠点施設として最も適した管理運営方式の採用を検討します。

なお、PFI方式の導入については、工程計画を満たした上で、活用を図る国の補助金に支障がない方式を絶対条件とした上で、採用を検討します。

(2) 運営組織の考え方

新記念館全体の方向性を定める館長のもと、副館長が経営、施設管理、総務を担う管理部門と各種事業活動を展開する事業企画部門を統括します。事業企画部門においては、専門性を有した学芸員や学校との連携や体験プログラムを担う生涯学習担当、継続的な発信やさまざまな交流企画を行う発信・交流担当などの配置を検討します。

また、会計年度任用職員を配置し、展示解説や各事業のサポートを行うボランティアの育成も検討します。

(3) 開館形態

幅広い市民や来訪者が利用しやすいよう、開館日、休館日、開館時間、利用料金などを検討します。なお、詳細は他施設の事例等も参考にしながら今後の整備を進める中で検討し、開館までに決定します。

① 開館日・時間

開館日数は年間150日以上、時間は午前9時から午後5時を基本とします。

② 入館料

博物館法では、「公立博物館」の場合、入館料その他博物館資料の利用の対価を徴収してはならないと定められており、ただし、博物館の維持運営のために、やむを得ない事情がある場合には対価を徴収できるとされています。

現在の鈴木貫太郎記念館は、関宿町との合併により野田市の管理、運営となってからは無料としております。また、野田市郷土博物館につきましても開館当初から昭和56年3月まで有料としておりましたが、昭和56年4月から無料としています。

にぎわいや交流の拠点として、記念館に多くの人々に来館していただくことを第一に考え、従来どおり無料とする、又は入館料を徴収することによる維持運営費に対する効果と集客面への影響を検討した上で有料とする、若しくは企画展を運営する上で必要な費用に相当する分については入館料を徴収するなどのあらゆる方法について検討します。

■休館日・開館時間・入館料の他施設事例

野田市内の博物館				
施設名 (設置者)	休館日	開館時間	入館料 () 内は団体料金	
			常設展	企画展
野田市郷土博物館 (野田市)	火曜日	9:00~17:00	無料	無料
関宿城博物館 (千葉県)	月曜日	9:00~16:30	団体料金 20 名以上 ■一般 200 円 (160 円) ■高・大生 100 円 (80 円) ■中学生以下・65 歳以上無料	団体料金 20 名以上 ■一般 300 円 (240 円) ■高・大生 150 円 (120 円) ■中学生以下・65 歳以上無料
千葉県内の博物館・人物館				
浦安市郷土博物館 (浦安市)	月曜日	9:00~17:00	無料	無料
市原歴史博物館 (市原市)	月曜日	9:00~17:00	団体料金 8 名以上 ■一般 300 円 (200 円) ■高校生 200 円 (100 円) 中学生以下無料	その都度定める 【参考】昨年度企画展 団体料金 20 名以上 ■一般 600 円 (500 円) ■高校生 500 円 (400 円) 中学生以下無料
伊能忠敬記念館 (香取市)	月曜日	9:00~16:30	団体料金 15 名以上 ■一般 500 円 (450 円) ■小中学生 200 円 (100 円) ■65 歳以上 450 円	常設展料金で閲覧可能
東山魁夷記念館 (市川市)	月曜日	9:00~17:00	団体料金 20 名以上 ■一般 520 円 (420 円) ■65 歳以上 410 円 ■高校・大学生 260 円 (210 円) 中学生以下無料	その都度定める 【参考】昨年度企画展 ■一般 900 円 (720 円) ■65 歳以上 720 円 ■高・大学生 450 円 (360 円) 中学生以下無料
大原幽学記念館 (旭市)	月曜日	9:00~16:30	団体料金 15 名以上 ■一般 300 円 (250 円) ■小中学生 200 円 (150 円)	常設展料金で閲覧可能
千葉県外の人物館				
漱石山房記念館 (新宿区)	月曜日	10:00~18:00	団体料金 20 名以上 ■一般 300 円 (150 円) ■小中学生 100 円 (50 円)	内容により変動あり 【参考】昨年度企画展 ■一般 500 円 (250 円) ■小・中学生 100 円 (50 円)
渋沢史料館 (北区)	月曜日	10:00~17:00	団体料金 20 名以上 ■一般 300 円 (240 円) ■高校生以上 100 円 (80 円)	常設展料金で閲覧可能
小泉八雲記念館 (松江市)	年中無休	4 月~9 月 9:00~18:00 10 月~3 月 9:00~17:00	団体料金 20 名以上 ■一般 600 円 (480 円) ■小中学生 300 円 (240 円) 松江市民は該当の料金の半額	常設展料金で閲覧可能

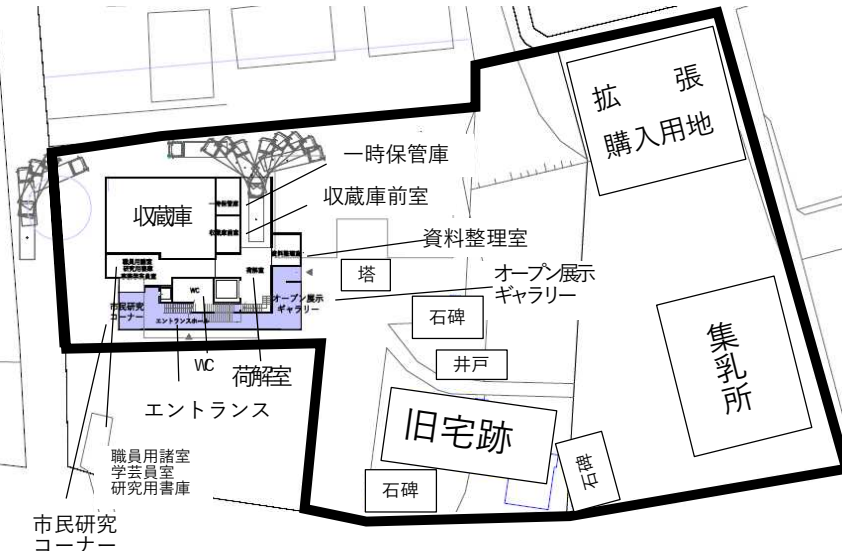
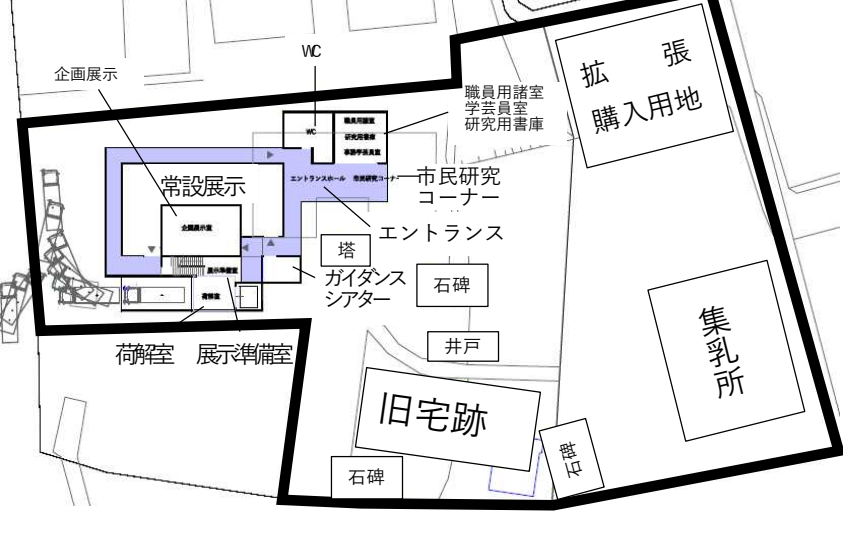
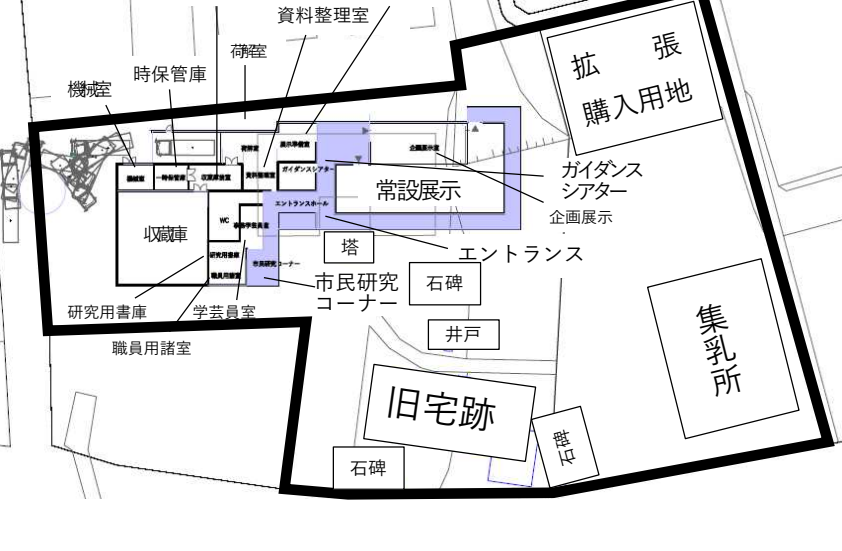
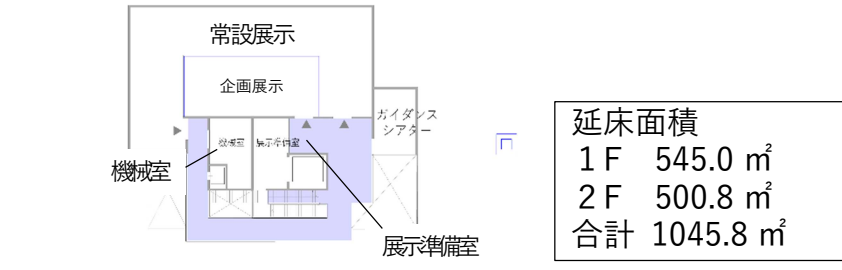
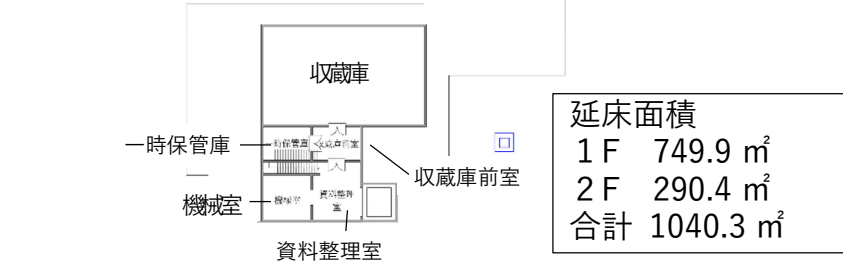
第8章 工程計画

建築及び展示における整備スケジュールは次のとおり。

令和８年度に建築実施設計及び展示基本・実施設計、令和９年度から令和１０年度にかけて建築工事、展示製作を見込み進める。

				令和7年度												令和8年度												令和9年度												令和10年度																			
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3								
建築																																																											
建築基本設計				■																																																							
建築実施設計																■																																											
建築工事																												■																															
展示																																																											
基本計画				■																																																							
展示基本・実施設計																■																																											
展示製作	工場製作																											■																															
	現場施工																																																			■							
開館準備																																																											
資料列品・開館準備																																																				■							

■野田市鈴木貫太郎記念館 整備プラン（案）（太線内が再建用地）

整備プラン		A 案 [1F 収蔵庫・2F 展示室]	B 案 [1F 展示室・2F 収蔵庫]	C 案 [平屋]
平面図	1 階			
	2 階	 延床面積 1 F 545.0 m² 2 F 500.8 m² 合計 1045.8 m²	 延床面積 1 F 749.9 m² 2 F 290.4 m² 合計 1040.3 m²	参考 収蔵庫 180 m² 常設展示室 200 m² 企画展示室 80 m² A 案、B 案もほぼ同面積 延床面積 1 F 1053.2 m²
各階機能	2 F	展示室、展示準備室、機械室	収蔵庫、一時保管庫、収蔵庫前室、資料整理室、機械室	—
	1 F	エントランス、収蔵庫、一時保管庫、収蔵庫前室、資料整理室、荷解室、トラックヤード、職員用諸室（休憩・ロッカー・給湯）、市民研究コーナー、事務学芸員室、研究用書庫	エントランス、市民研究コーナー、展示室、展示準備室、荷解室、トラックヤード、事務学芸員室、職員用諸室（休憩・ロッカー・給湯）、研究用書庫	エントランス、展示室、展示準備室、収蔵庫、一時保管庫、収蔵庫前室、資料整理室、荷解室、トラックヤード、事務学芸員室、研究用書庫、市民研究コーナー、職員用諸室（休憩・ロッカー・給湯）、機械室
①浸水対策 最大浸水想定：5.42m		・ 水密性を確保した収蔵庫・機械室とする（RC 造とし水圧に対応するため壁厚 250mm で防水仕様、水密防水扉を設置）。※収蔵庫は閉鎖空間であり出入口が 1 カ所しかないので、浸水対策がしやすい ・ 2 階の床面は、最大浸水想定より高く設定する。 ▲水密対応により、建築工事費が増加 ●大規模な水害時にも資料の移動が不要 ●1 階の階高を活かし、収蔵庫の 2 層化が可能	・ 浸水が想定される場合には、展示室の資料を 2 階の収蔵庫に移動する必要がある。 ※ A 案の収蔵庫と同様の仕様を展示室に導入する場合、通常時解放している出入口が複数あるため、浸水対策が複雑になる ・ 2 階の床面は、最大浸水想定より高く設定する。 ●収蔵庫の安全が確保される ▲展示室の大型絵画の移動が必要	・ 資料を安全に保管するため、水密性を確保した収蔵庫とする。浸水が想定される場合には、展示室の資料を収蔵庫に移動する必要がある。 ▲水密対応により、建築工事費が増加 ▲展示室の大型絵画の移動が必要

②来館者動線	▲展示室が2階にあるため、階段やエレベータによる移動が必要 ▲西側敷地との人の動線が、搬入車両の動線と交錯する	●エントランスから展示室までの距離が近い ▲西側敷地との人の動線が、搬入車両の動線と交錯する	●エントランスから展示室までの距離が近い ▲西側敷地との人の動線が、搬入車両の動線と交錯する
③眺望	●2階からの眺望により、関宿城を中心に現在も残る城下町の痕跡を把握することができる。	▲眺望は確保できない。	▲眺望は確保できない。
④整備費用	▲エレベータ2台（来館者用、資料用大型） ●建築面積が平屋に比べ小さいため、杭工事の負担が軽い	▲エレベータ1台（資料用大型） ●建築面積が平屋に比べ小さいため、杭工事の負担が軽い	●エレベータが不要 ▲建築面積が2層案に比べ大きいため、杭工事の負担が重い ▲東側法面の埋立等の整備必要
⑤敷地利用	▲隣接する西側敷地にバックヤードが表出するので、一体的な空間としての連続性を確保しにくい	▲隣接する西側敷地にバックヤードが表出するので、一体的な空間としての連続性を確保しにくい	▲隣接する西側敷地にバックヤードが表出するので、一体的な空間としての連続性を確保しにくい